

平成 26 年度読図講習会（机上） 1 日目レポート

大阪府山岳連盟
遭難対策委員会

- 日時 5月17日（土）13：30～16：00
- 場所 大阪科学技術センター



地図が身近なツールになれば・・・、コンパスを使いこなしたい・・・。
そのような登山者の夢を叶える！？「読図講習会」が、机上講習、実技と二日に渡って開かれた。

まず初日の机上講習講師は根岸真理さん。様々な山や自然に精通し、六甲のガイドハイクやガイドブックなど著書を通じて親んでいる方も多い。石田遭難対策委員長挨拶のあと「私は生まれつきの方向音痴で、良く道に迷うんです…」と自己紹介した根岸さん。謙遜と思いきや大学の道迷い研究検体(モデル)としてよく駆り出されるほど



だそう。だから、誰よりも地図の必要性を感じ、苦手意識を持ちながらも頑張って実績を積んだに違いない。そんな根岸さんのオシャベリに、会場の緊張がちょっとほぐれた。

今回会場となった大阪科学技術センターには、パーソナルメンバーや各山岳会のメンバー、また一般登山者など 40 名が集まり、今年も関心の高さを示している。

さて、方向音痴は直らないが、読図は練習を積みばできるようになる。また、コンパスが使えなくても読図はできるので、地図に親しむことを中心に進めましょうと、まず色々な地図が紹介された。名所がデフォルメされた観光地図や決して北を上にして描かれていない案内図、また六甲縦走路地図のように東西に扁平させて表現しているものなど、目的に応じてどのように表現されているのかを各自が確認。登山で活用されている「登山地図」や国土地理院発行の「地形図」も、前者は多彩な情報があって便利な反面地形が読みづ



らい、後者は地形が読み取りやすい反面登山道などが省略されていることが多い、また登山地図は濡れても大丈夫な用紙を使用しているが地形図はすぐ破れるなど、登山で活用するにはそれぞれ利点欠点があるので、必要に応じ組み合わせ、地形図はコピーして使うなど活用すれば良いとアドバイスされた。

次に等高線や地図記号の解説。

何はともあれ等高線を読むことが地形を知る第一歩。ただ「等高線」という言葉の意味はわかっても、地図で等高線をみているとアタマが段々混乱してくる…という辺りから読図が遠のいてゆく方も多いため、様々な資料を使いながら慎重に説明を続けていく。「まずピークを見つけましょう。その等高線の輪のカタチが山頂付近の山のカタチ、そこから輪が広がっているのがわかりますね！・・・逆に麓から見ていくと、山頂では輪が閉じているのがわかりますか？では、この資料で、ピーク（山頂）がいくつあるか数えてみましょう！」・・・と、わかりやすい解説に今まで地図嫌いだった参加者も目からうろこが落ちたよう。



そこまでくれば、次に尾根や沢を等高線から読み取る。

等高線は同じ高さを辿った線だということはわかったが、クネクネ入り混じった線は、どちらが尾根でどちらが沢かがわかり難い。「尾根か沢か、その部分だけを見るのではなく、



ピークからなど広い範囲から追いかけてみてください」「尾根は先が丸く、沢は先が尖っていることが多いですよ」「尾根は登りと下りが続くこともあるが、沢は登り続けるか下り続けるかです・・・」など地形の特徴を聞き、資料の地図上に尾根線や沢線を、各自思った通りに引いていく。自信がない人は隣同士で確かめ合ったり、解

らない人は周りに待機している他のスタッフに聞くなどしながら、みんなが地図を我が物にしたいという思いで、会場も熱気に包まれた。

地図記号では、まず色々なアイコンらしきものの説明から入る。それら川や岩場といった地形を表すものや、樹林帯などの植生、また建物や道路といった人工物まで、そこはどのような地形なのか、またそこに何があるのかなどを、実際の地図にある地図記号を見ながら解説する。特に、ガケや滝といった落差の大きいところは等高線だけでは表しきれないので、記号と併せて読むことが必要になる。

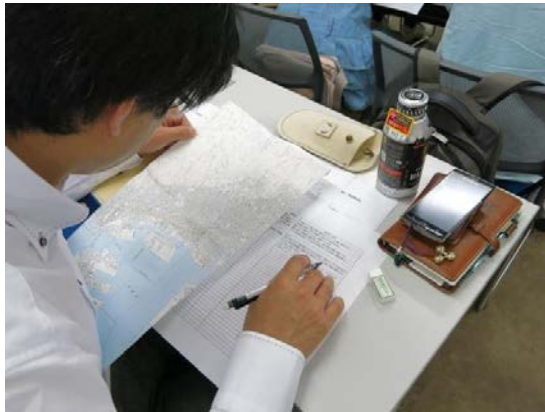


この等高線や地図記号の説明と前後して、磁北線の説明があり、各自資料の一つである地形図に定規を当てて引いてみた。磁北線とは、地図上の北とは異なった、磁石が示す北の方位を示した線の事。関西地方であれば大凡西に7度傾いているので、国土地理院の新地形であれば、地図の右下を起点として上は右から51.6mm左に寄った点を結んだ線となる。磁北線は、地図の全てに引かなくても必要なところだけ引いても良いし、また1/25000縮尺図に複数線引くなら、4cm幅で引くと地図上の1kmごとに引くことになり、距離感が分かって便利などの活用法を併せて聞いた。

そして机上の総合演習に移る前に、コンパスの使い方を簡単に教わった。コンパスは方位を知ることのほか、地図を整置する（地図と方位を一致させる）、距離を割り出す、目標地点の方向を示す、といった点に使用できるので、使いこなせば便利な道具となるが、コンパスができないと読図ができないということではないので、基本機能の「方位を知る」ことができれば普通の磁石でも良いとのこと。何れにせよ、実地で磁石やコンパスを使い慣れることが肝要だ。

そして地図上で、実技で歩くコースにどのような特徴があるかを各自課題として取り組み、隣同士で答え合わせをして演習を終えた。





最後に、地図を読むとは、計画段階では地形の特徴、要素を知り予行演習になる。また現地では分岐などで地形の特徴、要素と地図を合わせることで道迷いを防ぎ、万一道に迷っても地形や植生、方位などから現在地を推察するなど、道迷いだけでなく、登山をより楽しいものに活用できるものなので、是非読図を身に付けてほしい。と机上講習を締めくくられた。

広報委員会佐伯典昭

平成 26 年度読図講習会（実技）2 日目レポート

大阪府山岳連盟
遭難対策委員会

● 日時 5月18日（日） 8：30～15：00

● 場所 王子公園～新神戸布引の滝

前日の座学をフィールドに出て、実際に読図をするため阪急王子公園から新神戸の布引の滝までのルートを地図で確認しながらたどるコースです。

5 班に分けて各班 30 分の時間をおいて出発。各班のリーダーの説明、質問などをおして読図方法の習得を行いました。

● ルート

8：30 王子公園駅を出発

↓

青谷橋を越えて山道

↓

青谷道

↓

行者堂

↓

ここから登山道を外れる

北西に進路をとり尾根づたいに天狗道まで

↓

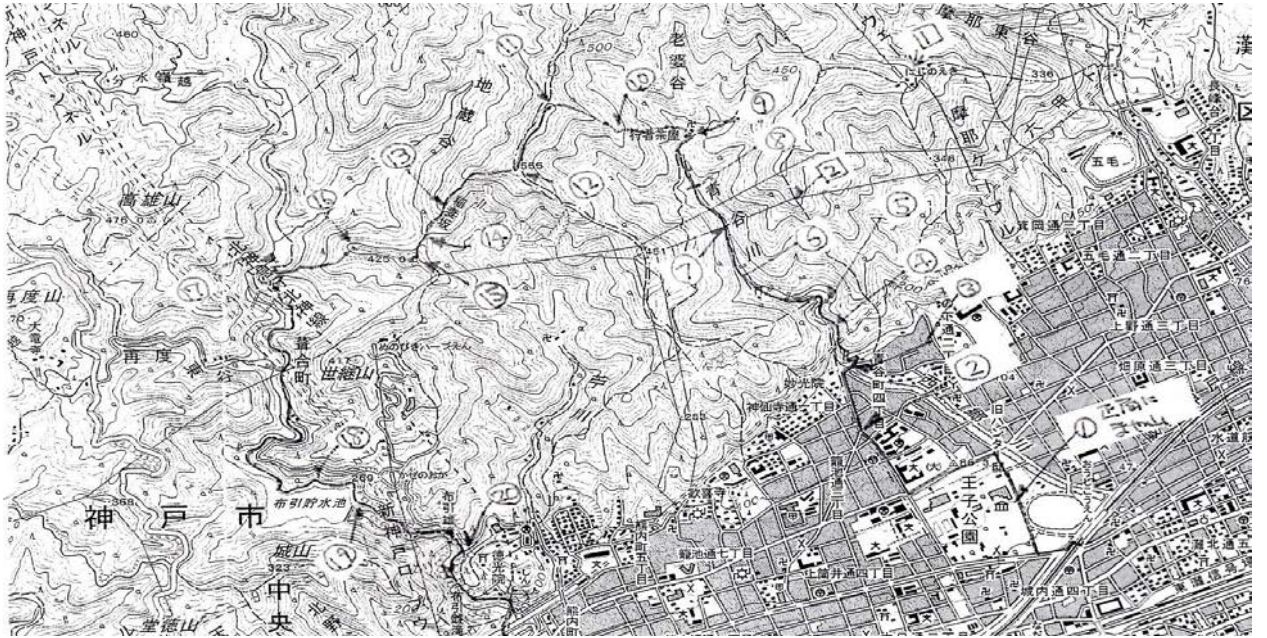
稲妻坂、市ヶ原

↓

12：45 布引の滝

このコースで読図のポイントを 20 点設け、目印、ルートの読み方、距離、等高線の間隔、方角の確認の方法などを説明して辿りました。

第 1 班で、毛虫、蜘蛛の巣をかき分けながらルートを進む大変な作業でしたが、皆さんは質問、現在地の確認などよく出来ており、スムーズな実技講習ができました。



ルート図



出発の様子



藪こぎの中での読図



難問の三角点探し



ゴールの布引の滝